慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日本に於ける田地の利廻りと農民の貯蓄心
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.10 (1914. 12) ,p.1347(119)- 1356(128)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19141201-0119

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

貨幣の一職分たる價値の貯藏に付ては、報告書は、ルーピー銀貨の金爲替相場を維持するには金の集積を必要とすと云ふ點に關連して、之れに重きを置きたり。されど土人のなす價値貯藏の原始的の形式たる死藏（ホールディング）に付ては全く注意を怠れり。然れども今や土人のルーピー銀貨に對する信用は舊の如くならず、隨て銀を貯藏せずして、金を求むるに至れり。而して彼等が一旦金を貯藏するや、再び得るの困難あるにより容易に之を手放すことをせざるなり。價格の尺度（將來に於ける支拂を含む）たる職分に關しては報告書は、ルーピー銀貨が外國爲替相場に於て金と平價を維持する以上は其の價格又は購買力は世界的金融市場に於て定まる金の價格又は購買力と合致すべし。故にルーピー銀貨の實價如何は問ふ所に非ずとせるものの如し。然れども ルーピー銀貨が不換紙幣の性質を具有すと認むべきものなる以上は、かかる單純なる關係は之を期待する能はざるなり。

ルーピー銀貨が不換紙幣に類似する以上は又之れと同一の制限を受け、同一の弊害の存するものと見さる可からず。殊に其の流通高を嚴格に制限するに非されば物價の一般的騰貴を來すの弊を免かる可からざるなり。例へば貯水地に流入する水の量が流出する水の量よりも大なる時は平準點は上らさるを得ず、加之、若し流出口全くなきときには水準は一層甚だしく上昇す可し。そは偖て置き印度に於ける物價は既に事實騰貴し居れるなり。其の騰貴の程度、性質、及び原因に付ては議論の存する所なれども、大體より云へば千九百年以後に於ける物價の騰貴はルーピー銀貨の流通高の增加に關係を有するものの如し。如斯既にルーピー銀貨膨脹の影響が表はれたるものとせば、近き將來に於ける物價騰貴は一層顯著なるものあるべし。是等の豫想にして實現されんか之れ重大なることにして現に或る最高の地位にある當局者の如きは此の物價騰貴を以て印度に於ける不安の主なる一原因となしたり。不換紙幣又は類似の原因より生する物價の騰貴が常に國民の大多數に損害を加へて一部の商業階級の者を利するは學理の之を敎へ又歷史上多くの事實の證明する所なり。

尤も物價騰貴が金の增加に歸因する場合にありても同一の結果を生するが如しと雖も而も金貨の場合にありては一種の自然的經濟作用ありて漸次に貨幣の數量を制限し從つて物價平準を低からしむるものなれども、ルーピー銀貨の如き人爲的に其の價格の左右せられたるものにありては全くかかる自然的作用を缺如するものなり例之、何人と雖もルーピー銀貨を鑄潰して之を裝飾品となすものなしと雖も金貨は常に溶解されて、他の用途に用ひらるなり。恐らく印度政府と雖も、通貨膨脹の弊害が極度に達するに非されば、ルーピー銀貨を溶解して通貨を收縮することは實際上難しとする所ならん。通貨の膨脹が一定の程度を超過すれば、ルーピー銀貨の購買力の一般的低落は必ず金貨に對する特殊的低落を惹起すべし、專茲に至れば金爲替政策の主たる目的は全く失はるるに至る可し。（完）

日本に於ける田地の利廻りと農民の貯蓄心

高城仙次郎

一　緒言

利子歩合の高低は資金の需用供給に依りて定まり、從つて資金の需用多ければ、利子歩合比較的高く、之に反して資金の供給多ければ其歩合低きことは一般に認めらるゝの事實にして茲に呶々するの必要なき所なり。又、一地方又は一國の住民の貯蓄心旺盛なれば、其地方又は其國に於ける資金は比較的に潤澤なる可き道理なり。英佛兩國に於ける資金の需用が盛なるにも拘らず、此兩國に於ける利子歩合が他國に比して低率なるは英佛人の貯蓄心の甚だ大なること

を示す所以なりと謂つ可きか。

英佛兩國に比して我國に於ける利子歩合が頗る高率なる所以は資金の需用が比較的に盛んなると同時に我國民の貯蓄心が甚だ微々たるが爲めならん。我國に比すれば低率なるも英佛に比すれば高率なる利子歩合を有せる獨逸、更に高率なる露國、米國等に於ける現象も叙上の原則に依りて説明することを得可し。

若し茲に論ずることにして事實なりとせば、換言すれば、住民間に貯蓄心の旺盛なる國に於ける利子歩合は低く、貯蓄の風習の振はざる國に於ける利子歩合は比較的高しとせば、同一現象は一國内の各地方間に於ても存在す可きものなり。換言すれば、假りに我國の北部に於ける貯蓄心が西部に於ける貯蓄心よりも盛んなりとせば北部に於ける利子歩合は西部に於ける利子歩合よりも比較的に低率なる可きなり。

然りと雖も、斯くの如き演繹的斷定が果して歸納的論證に依りて其正確なることを證明し得るものなるや、是れ余の久しく疑問とせし所なりき。如何となれば、此歸納的論證に必要なる正確なる統計を求むることは不可能なりと信じたるを以て也。

此論證に必要なる統計とは貯蓄心に關する統計と利子歩合に關する統計なりとす。貯蓄に關する統計としては郵便貯金の府縣別統計並に貯蓄銀行府縣別統計なるものありと雖も、貯蓄心は必ずしも悉く斯かる意味に於ける貯蓄として表はる可きものに非ずして、或は物品の貯藏として、或は株券債券等の購入として、或は又定期預金若しくは小口當座預金等として表はるゝものなるを以て　貯金の統計は單に貯蓄心の大勢を示すに過ぎざるなり。轉じて利子歩合の統計は如何と云ふに、是れ又正確なりと看做す可きもの皆無なりと謂ふ可し。利子歩合の統計としては日本銀行及び其他の銀行の取引に屬する預金利子歩合、貸付利子歩合並に割引歩合の地方別統計の存するものありと雖も、個人間に於ける貸借利子歩合の統計は殆んど存在せずと云ふも可なり。加之、此等銀行の利子歩合の統計が假りに正確なりとするも、其中孰れを以て標準とす可きかは頗る困難なる問題なりとす。少くとも吾人の知らんと欲する國民的利子歩合とも稱す可きものは果して如何なる統計に依りて示されつゝありや。

余の觀る所に據れば、國民の貯蓄心の晴雨計たると同時に資本の需給に係りて定まる利子歩合は時々刻々變動しつゝあるものにして、從つて半年に一回又は一年に一回改正せらるゝ銀行の預金利子歩合等に依りて完全に表示せらる可きものに非ず。尤も貸付歩合、殊に手形割引歩合は頻繁に改正せらるゝことあるものにして從つて預金歩合よりも利子歩合の變動を忠實に反射するものなりと謂つ可し。然りと雖も、貸付歩合並に手形割引歩合の高低は債務者の信用如何に依りて大に左右せらるゝものにして、從て單純なる利子歩合と看做すことを得ざるなり。

然らば、眞正の所謂國民的利子歩合は何に依りて之を知ることを得るや。思ふに政府公債の利廻り即ち是れなりとす。政府公債に對する投資は殆んど何等の危險分子を含まず、從つて少くとも國民に對しては、公債の利子は危險率を雜へざる純粹の利子なりと謂ふ可し。而して公債の利子をば公債の市價を以て除したる商は公債所有者の受領する眞正の所得にして、是れ即ち利廻りと稱するものに外ならず。此利廻りは取りも直さず公債所有者を滿足せしむる利子歩合にして、種々の利子歩合中に於て最も重要なる基礎的標準なりとす。世人の多くは公債の利廻りを以て公債の市價に依りて定まるものなりと思惟せるが如くなるも、實は公債の市價は却つて利廻りに依りて定まるものなりとす。され

ば、公債の利廻りの地方別統計の如きものあらば、最も正確に眞正の利子歩合と貯蓄心との關係を地方別に考究することを得可きも、不幸にして公債利廻りの地方別統計の存するものなし

然らば叙上の關係を示すの方法全く缺如せるかと云ふに必ずしも然らざる也。如何となれば利子歩合の地方別統計としては最近に於て發表せられたる勸業銀行の調査に係る田地の利廻りに關する府縣別統計を用ひ、貯蓄心の晴雨計としては遞信省の發表に係る農民郵便貯金額の府縣別統計を基礎として、不完全ながらも、叙上の關係を數字的に研究することを得ればなり。

思ふに公債利廻りの統計を求むることを得ざる限りは之に代る可き最も信頼するに足る利子歩合としては田地の利廻りを擧ぐ可し。我國民の半數を構成せる農民の有せる最も重要なる財産にして且つ農民の盛衰を支配せるものは云ふ迄もなく田地なり。されば、田地の利廻りは農民間に於ける利子歩合の代表物として看做すことを得ると同時に、全國民間に於ける利子歩合を代表するものなりと謂ふも大なる失言には非ざる可し。

次に郵便貯金額統計は種々の預金の統計中に於て最も正確に貯蓄心を代表せるものなりと云ふを得可きか。云ふ迄もなく、貯蓄心なるものは同一の人に於ても預金利子歩合の高低に依りて大なる影響を蒙むるものなれば、單に銀行の預金額が增進せりと云ふ丈にては貯蓄心が必ずしも增加せりと云ふ能はざるなり。如何となれば貯蓄銀行又は普通銀行の預金利子は時々變更せらるるものなるを以て也。又、銀行預金利子は地方に依りて其率を異にするものなれば、甲地方に於ける銀行預金額が乙地方に於ける預金額よりも多きの事實のみに依りて甲地方に於ける貯蓄心は乙地方に於ける貯蓄心よりも旺盛なりと斷定することを得ざる可し。之に反して、郵便貯金利子歩合は全國同樣なるを以て、從つて若し甲地方に於ける郵便貯金額にして乙地方に於ける郵便貯金額よりも多ければ、甲地方に於ける貯蓄心は乙地方に於ける貯蓄心よりも比較的盛んなりと云ふことを得可し。（郵便貯金に關する設備並に郵便貯金に對する貯蓄銀行等の競爭が兩地方間に逕庭なしと假定せば）

以上論述せる理由に基づきて、吾人は之より進んで田地の利廻り並に郵便貯金の府縣別統計を用ひて我國の各地方に於ける利子歩合と貯蓄心との關係を略述せんと欲す。

二　田地の利廻り

玆に先づ吾人の擧げんと欲する田地の利廻りは勸業銀行の發表せる『第二回全國田畑利廻り調』に據れるものなり。此調査は同銀行が全國の各市町村に付一名宛の資産家に依囑して收集せる報告書を基礎として編纂せるものなり。其報告書の數は七千五百八十二に上り、調査事項は明治四十三年より大正元年に至る三ヶ年間に於ける田地又は畑地の法定地價、賣買價格、實收小作料、公課並其他の負擔、管理取立費等にして、此等の報告を基礎として田地及び畑地の利廻りを計出せり。賣買價格は實際賣買の例に依れるものと見込賣買に依れるものとを徵し、利廻りを計出するに當りて此兩者を區別して、見込賣買に依れる田又は畑の利廻り及び實際賣買に依れる田又は畑の利廻りを擧げたり。統計は總て府縣別となし、且つ全國を本州中區、本州北區、本州西區、四國區、九州區に大別し、各區毎に其平均を示せり。

此中郵便貯金と對照せしむる爲めに左に引用せんと欲する數字は田地の利廻りのみなりとす畑地を除外せるは宅地は實地用として賣買せらるるものなからざる可きを以て、其利廻りは吾人の目的に適せざる所あるの虞あるが故なり。

全國田地利廻り

府縣	見込價格に依れるもの	實際價格に依れるもの
東京	〇・〇五五〇	〇・〇五二三
神奈川	〇・〇六八五	〇・〇七〇七
埼玉	〇・〇七〇五	〇・〇七〇〇
千葉	〇・〇六八八	〇・〇六八二
茨城	〇・〇八四八	〇・〇八一一
栃木	〇・〇七三八	〇・〇八四六
群馬	〇・〇八九一	〇・〇九二八
長野	〇・〇七七九	〇・〇七一三
山梨	〇・〇九〇八	〇・〇九四七
靜岡	〇・〇六〇〇	〇・〇四二八
本州中區東部平均	〇・〇七三九	〇・〇七二九
愛知	〇・〇四一六	〇・〇四一九
三重	〇・〇六三七	〇・〇六七七
岐阜	〇・〇五三五	〇・〇六〇四
滋賀	〇・〇五九八	〇・〇五八四
福井	〇・〇五〇七	〇・〇五二八
石川	〇・〇五八三	〇・〇五七一
富山	〇・〇五三〇	〇・〇五四一
本州中區西部平均	〇・〇五四七	〇・〇五六〇
新潟	〇・〇六四九	〇・〇六三一
福島	〇・〇九〇八	〇・〇八六三
宮城	〇・〇九五六	〇・〇九五七
山形	〇・〇七一六	〇・〇七二一
秋田	〇・〇六八八	〇・〇七一八
岩手	〇・一〇一六	〇・〇九六八
青森	〇・〇八一九	〇・〇八三四
本州北區平均	〇・〇八一二	〇・〇八〇八
京都	〇・〇六七三	〇・〇六七九
大阪	〇・〇四四八	〇・〇四三一
奈良	〇・〇四九四	〇・〇五〇五
和歌山	〇・〇六〇三	〇・〇五二一
兵庫	〇・〇五五六	〇・〇五六七
岡山	〇・〇六一八	〇・〇六三〇
廣島	〇・〇五四一	〇・〇五三六
山口	〇・〇五九九	〇・〇六二四
島根	〇・〇六〇五	〇・〇六〇〇
鳥取	〇・〇五五八	〇・〇五九四
本州西區平均	〇・〇五七五	〇・〇五八〇
德島	〇・〇六三六	〇・〇六〇七
香川	〇・〇五三五	〇・〇五二四
愛媛	〇・〇六三〇	〇・〇五九二
高知	〇・〇五九九	〇・〇五八八
四國區平均	〇・〇五九一	〇・〇五八〇
長崎	〇・〇六三五	〇・〇六九三
佐賀	〇・〇五六〇	〇・〇五九〇
福岡	〇・〇五九二	〇・〇五八一
熊本	〇・〇五三一	〇・〇五五八
大分	〇・〇六九一	〇・〇七三六
宮崎	〇・〇六六三	〇・〇七四八
鹿兒島	〇・〇六四一	〇・〇六六四
九州區平均	〇・〇六〇九	〇・〇六四五

備考、原表には東京府以下富山縣迄の十七府縣をば本州中區とし、其平均を擧げたるが、此の區域の東部に屬する諸府縣と西部に屬する諸縣との間には利廻りの差著しきを以て、本表には假りに東京府以下靜岡縣迄の十府縣を本州中區東部とし他の諸縣を本州中區西部とせり。

原表には沖繩縣をも擧げたるも、本表には之を略せり。

前表の示す所に據れば、見込價格に依る場合に於ける利廻の最も高きは本州北區の八分一厘二毛にして、最も低きは本州中區西部の五分四厘七毛なりとす。又、實際價格に依れる場合に於ける利廻りの最も高きは同じく北區の八分〇八毛にして、最も低きは中區西部の五分六厘なり、茲に吾人の特に注意を要する點は見込價格に依りて計算せる利廻りと實際價格に依りて計出せる利廻りとが略一致せるの一事なりとす。

左表は即ち之を示すものなり。

地方	見込價格に依れる利廻り	實際價格に依れる利廻り
	分	分
本州北區	八・一二	八・〇八
本州中區東部	七・三九	七・二九
九州區	六・〇九	六・四五
四國區	五・九一	五・八〇
本州西區	五・七五	五・八〇
本州中區西部	五・四七	五・六〇

右表は地方利廻り高低の順に依りて配列せるものなるが、見込價格に依る場合と實際價格に依る場合とは共に其順序を同ふせり。されど、

此の順序と郵便貯金額の順序とは果して一致せるや。是れ吾人の知らんと欲する所なり。

三　郵便貯金

前項に於て吾人は田地の利廻りの地方別平均率を示したるが、本項に於ては之と對照せしむ可き農家の貯蓄心の高低を示さんと欲す。農家のみに之を限定るは田地の利廻が農家と密接の關係を有するも、他の階級、例へば、商工業者と直接の關係を有せざるを以てなり。

ざれど此所謂貯蓄心の高低は如何なる方法に依りて示すと得るや。遞信省の報告書には農家の郵便貯金額の府縣別統計を擧ぐると雖も、此統計が農民間に於ける貯蓄心の盛否を示さざるは明かなり。如何となれば、農民の貯蓄心低き府縣に於ても若し農民の數多ければ其府縣の農民貯金は多額に上る可ければ也。次に農民貯金者一人當りの貯金額も必ずしも農民の貯蓄心の高低を示さざるなり。如何となれば、一地方に於ける農民貯蓄心一人當りの貯金額が高くとも、そは貯金する者の貯金額の多きことを示すものに過ぎずして、若し貯金せざる者が其地方に於ける農民間に多しとせば、其地方の貯蓄心は高しと云ふ能はざるを以て也。

思ふに假りに郵便貯金額に依りて或二ヶ國民の貯蓄心を比較せんと欲せば、各其國の郵便貯金總額又は貯金者一人當り貯金額を比較せずして全國人口一人當りの貯金額を比較す可きなり。されば、今吾人が我國の農民間に於ける貯蓄心を比較するに當りて重きを置く可きは郵便貯金を有すると否とを問はず農民一人當りの貯金額を比較す可きものなりとす。されど、茲に於て吾人は一の困難に遭逢せり。即ち農民の府縣別統計を入手すること能はざりしこと是れなり。故に吾人は各府縣の郡部人口を以て郵便貯金額を除して得たる商を以て、不完全ながら農民一人當り貯金額を代表せしむることとせり。

而して、田地の利廻りは明治四十三年より大正元年迄の三ヶ年の平均なるを以て、郡部人口と郵便貯金とは之と對照せしむる必要上明治四十四年々末の現在數を用ひて、左の一人當り郵便貯金額を計出せり。（府縣別の數字は左程重要ならざる爲め且つ紙面の都合もある故之を省略し、單に地方別の統計を擧ぐることとせり。）

地方	一人當り郵便貯金額 圓
本州北區	〇・五〇
九州區	〇・六九
本州中區東部	〇・七五
四國區	一・四四
本州四區	一・四四
本州中區四部	一・八七

右表に示すが如く、一人當り郵便貯金額は本州北區の五十錢を最低とし、本州中區西部の一圓八十七錢を最高とす。次に吾人は項を改めて右表に示されたる一人當り郵便貯金額の順序が田地利廻りの順序と一致せるや否やを考査せんと欲す。（註）

註、參考の爲めに農民一人當りの郵便貯金並に貯蓄銀行預金額を求めたるに左の結果を得たり。

區域	圓	區域	圓
九州	一・〇四	四國區	二・三八
本州中區東部	一・四九	本州四區	二・三九
本州北區	一・六一	本州中區西部	二・九八

右表に示す順序は大體に於て前表と一致せるも、多少注意を要する相違を呈せり。即ち本州北區は前表に於ては第一位なるに本表に於ては第三位に在り。換言すれば、北區の郵便貯金は比較的少なく貯蓄銀行の預金は比較的に多し。是れ或は北區に於ける郵便貯金の機關の不備なるか或は北區に於ける比較的低き貯蓄心が郵便貯金の利子よりも概して高率なる貯蓄銀行の預金利子の爲めに則載せらるゝが故なる可し。

四　利廻りと貯蓄心

田地の利廻りと貯蓄心とを比較するに當りて田地利廻りの順序に依りて左の如く此兩者を對

照せしむることを得可し。

地方	見込價格に依る利廻り	實際價格に依る利廻り	同上の平均	一人當り郵便貯金
	分	分	分	圓
本州北區	八・一二	八・〇八	八・一〇	〇・五〇
本州中區東部	七・三九	七・二九	七・三四	〇・七五
九州區	六・〇九	六・四五	六・二七	〇・六九
四國區	五・九一	五・八〇	五・八六	一・四四
本州西區	五・七五	五・八〇	五・七八	一・四四
本州中區西部	五・四七	五・六〇	五・五四	一・八七

右表の示す所に據れば、田地の利廻りの高き地方に於ては貯蓄心少なく、田地の利廻りの低き地方に於ては貯蓄心比較的旺盛なるのみならず、九州區と本州中區東部とが其位置を轉換せることを除けば、利廻りの順序は郵便貯金額の順序と一致せるを見るなり。

而して、利廻りは利子歩合を代表し（上文參照）郵便貯金額は貯蓄心を示す（上文參照）ものなれば、利子歩合が、吾人の冒頭論じたるが如く、貯蓄心と反比例に變動するの傾向あることは不完全ながら此統計に依りて論證せられたりと云ふことを得可し。

然りと雖も、本州中區東部と九州區が其位地を轉倒せるは如何なる原因の存するものありや。郵便貯金が比較的九州區に於て少なき爲めなるか、或は又利廻りが比較的同區に於て高き爲めなるか、孰れにもせよ、其原因は如何。

思ふに此問題を解決するには田地の利廻り並に郵便貯金以外の經濟事情に就きて正確なる調査を要す可ければ、余は之を一宿題として殘し置かんと欲す。

上文に用ひたる統計は不完全なるもの少からず、從つて以上略述せる所は決して研究と名く可き程のものに非ざれども、平素余が演譯的に斷定し居りしことゝ今回入手せし統計が不完全ながら一致せるを發見せるを以て試みに其關係を記述せることゝせり。

批評と紹介

和田垣教授在職二十五年記念　經濟論叢

大正三年十一月有斐閣發行
菊版千〇五五頁正價金貳圓五拾錢

（本書の目錄は本誌廣告欄に掲載せる有斐閣の廣告に就きて知られたし）

和田垣謙三博士は人の知れるが如く我國に於ける經濟學界の元老にして、斯學普及の最大功勞者の一人なり。現今官公私立大學に於て經濟學を教授しつゝある知名の學者中和田垣先生の薫陶を受けたる者は數十を以て數ふ。昨年は遇々和田垣博士の在職二十五年に相當せしを以て門弟友人等の間に其の祝典を擧行するの企ありしが、單に祝宴を催すに止めずして學者の成功を祝し且つ之を紀念するの最良方法にして紀念論叢を發行することに衆議一決せるを以て、山崎高野、福田、矢作の諸博士其編輯委員となり門人並に門人以外にて和田垣先生を敬慕せる人々より論文を徵して編纂上梓するに至れるなりと。本書即ち是れ也。

本書は二十九人の寄稿者に依りて執筆せられたる菊版千頁に餘る一大著述にして、我經濟學界に於ける此種の最初の企なると同時に永く記憶す可き書物なり。今之を以て曩に上梓せられたる『宮崎教授在職紀念論文集』と比較するに、本書は後者に比して管に頁數に於て二百頁多く執筆者の數に於て十三名多きのみならず、更に兩者の間には少くとも二個の點に於て大に異れる所あり。即ち一は宮崎博士紀念論文集に於ては十六篇の論文が政治、法律並に經濟の三方面に分布せらるゝに對して、和田垣博士紀念論叢に於ては二十八篇（金井博士の執筆せられたる序文を除く）の論文が其論題を悉く經濟問題に